

## 開会式

### 開会宣言

なめがた会議実行委員長 小林 久

ただいまより第26回環境自治体会議 なめがた会議を開会いたします。2日間、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 主催者挨拶

環境自治体会議代表幹事 山田 修

(茨城県東海村長)

第26回環境自治体会議 なめがた会議に多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございます。

国内外で自然災害が続きました。被災された皆様方にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りします。

鈴木行方市長のご配慮と地元の皆様方のご尽力でこうした全国会議が開催できました。

当会議は世界湖沼会議とコラボし、私は昨日、湖沼会議の開会式と基調講演に出席してきました。湖沼会議で中学生が、「参加することが重要」と発表していました。分科会では活動の発表があります。積極的に質問や意見交換をして議論を深め、それぞれの地域に持ち帰って自分たちの活動をさらに前に進めていただければと思います。

小林実行委員長はじめ実行委員会の皆様方、行方市役所の皆様方に、感謝申し上げますとともに、参加された皆様方に、思い出に残る大会となりますことを祈念して、挨拶いたします。2日間、よろしくお願ひいたします。

### 主催者挨拶

茨城県行方市長 鈴木 周也

第26回環境自治体会議なめがた会議が行方市を会場に、盛大に開催できることに、深く感謝を申し上げますとともに、全国各地からお越しいただきました皆様方を、心から歓迎いたします。

行方市は霞ヶ浦と北浦、2つの湖に囲まれた全国的にも珍しい地形、水資源豊かな土地、水郷で

す。行方台地と呼ばれる肥沃な大地を擁し、様々な農産物が生産され、都市近郊型農業の一大産地として、その名をはせています。

今回のテーマ、「悠久なる忸湖の国 持続可能な地域づくり千年続く未来創造」にあるとおり、行方市では、風土の豊かさの恵みを受取る産業を伝承・発展させ、伝統文化を守りながら、これらを基盤にまちづくりを行いました。特に水環境、水辺の環境施策では、行方市環境基本計画に基づいて、地域の課題に即応した様々な取り組みを行ってきました。しかしこのような活動は、近年高齢化、人口減少により継続が困難になってきているところ。このような状況を鑑み、改めて今後も千年以上続く持続可能なまちを築いていくためには、環境問題をはじめとして社会の在り方、エネルギー政策、生き方や暮らし自体を見つめなおし、市民・市・民間事業者・行政府、あらゆる主体が一体となって、課題に対する新たな方向性を見出さなくてはなりません。

この会議ではパネルディスカッションと3つの分科会が行われます。私達の生活に身近な水辺の環境保全に地域の人材・資源を活用し、活動していくこと、地域との繋がりを意識すること、地域産業で生まれた富を地域の環境保全や官民協働のまちづくりに生かしていくことなど、民間活力を活用した先進事例を交えてともに考えていきたいと思っています。

なめがた会議の開催にあたり、尽力いただきました環境自治体会議役員の皆さん、なめがた会議実行委員をはじめとする関係各位に敬意と感謝を表しますとともに、多くの皆様に感謝を申し上げます、挨拶いたします。

### 歓迎挨拶

行方市議会議長 鈴木 義浩

第26回環境自治体会議なめがた会議が開催されることは、光栄でよろこばしく、厚く御礼申し

ます。県境を越えて情報と政策を共有しあい、自治体自ら環境問題に取り組まれることに、議会を代表して敬意と感謝を申し上げます。

行方市では、市民や行政による環境への取組みが推進されていますが、生活の利便性の追求や大量消費・廃棄という現代の社会経済活動を鑑みますと、今後の環境行政は新たな視点による長期的かつ総合的な対策を計画的に展開していくことが肝要であると考えます。市民や市民団体、民間企業はもとより、私達議会も、将来にわたる環境保全に向けた政策を考え、誇れる湖と肥沃な大地を守るための活動に取り組みたいです。

なめがた会議が、盛況のうちに終わりますことと、本日お集まりの皆様方のご健勝と持続可能な地域づくりに向けたご活躍を心から祈念し、歓迎の挨拶といたします。

## 来賓祝辞

環境省大臣官房環境計画課 課長 川又 孝太郎 様

環境自治体会議関係者の皆様方、参加者の方々にご挨拶させていただきありがとうございます。

今年の夏の台風や大雨の被害にあわれた自治体の方々には、お見舞い申し上げます。

国連気候変動に関する政府間パネルは、気候変動の悪影響を防ぐためには 2050 年には温室効果ガスの排出量を実質ゼロにしなければならないという結論を報告しました。二酸化炭素の排出量削減には、再生可能エネルギーの普及が必要です。

再生可能エネルギーの普及と気候変動に伴う災害や人口減少・少子高齢化、地域経済の疲弊という課題を解決するヒントとして、ドイツのシュタットベルケがあり、日本にとっても参考になるのではないかと考えています。行方市長も仰ったように、民間活力を利用してインフラ・サービスを維持していくという方向性が日本でも必要になってくると考えています。

地域の資源を活用した地域経済活性化策として、今年 4 月に閣議決定された第 5 次環境基本計画の中で「地域循環共生圏」のコンセプトを示しました。この地域循環共生圏では、エネルギーの

みならず、食・水・木材といったあらゆる地域資源を活用することを念頭においています。そして都市と地方が連携して、自治体・企業・NPO など、あらゆる主体がパートナーシップを築き、地域循環共生圏をつくっていくことを目指しています。環境省は、この地域循環共生圏づくりの施策を展開していきますので、ぜひとも環境自治体の皆様にご協力いただきたいと思います。

最後にこのなめがた会議のご成功を祈念して挨拶といたします。

## 来賓祝辞

茨城県県民生活環境部環境政策課

課長 阿部 哲朗 様

環境自治体会議なめがた会議の開催、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

茨城県内では、つくば市をメイン会場に、第 17 回世界湖沼会議が開催されています。昨日の基調講演に出席した方もいらっしやると伺いました。お礼を申し上げます。

今日の環境問題解決には社会構造を持続可能なものへと変革していくことが重要です。本県では、昨年 3 月に茨城県地球温暖化対策実行計画を策定し、産業、家庭など 4 部門ごとの温室効果ガスの削減目標を設定し、地球温暖化対策の推進と気候変動の影響への適応策に取り組み、自然環境を守りながら人と自然が共生する環境負荷の少ない社会の実現を目指しています。

多くの皆様の参加により、連携がより一層強化され、環境問題解決の新たな展開に繋がる会議となりますことを、大いに期待する次第です。

本会議が環境保全に取り組む多くの皆様にとって実りの多い会議となりますとともに、お集りの皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念して、挨拶とさせていただきます。